

アカデミック英語 No.5

英語で定義する・例示する — namely・such as・that is を使った説明技術

導入文

英語の論述・面接で「専門用語を説明しながら使う」技術は、採点者に「理解している」と示す上で非常に重要だ。namely・such as・that is・in other words・for instance など「定義・例示・言い換え」のシグナル表現を使いこなすことで、英語論述の説明力が根本から上がる。

講義概要

英語論述・面接における「定義」「例示」「言い換え」の3機能を体系化し、各機能で使われるシグナル表現（namely・such as・that is・in other words・for instance・including）の正確な使い方と区別を習得する。医学・科学テーマの英語論述での専門語説明に特化した練習を行う。

授業目標：英語論述を「専門語を使うだけ」から「定義・例示・言い換えて説明しながら論じる」状態へ変える。

対象者：高2（英語得意層）～高3・浪人生。英語論述・面接がある難関国公立・医学部受験生で、専門語の説明力を高めたい生徒。アカデミック英語No.1～4の受講後が望ましい。

授業時間：授業90分＋演習・質疑応答30分

到達目標：namely・such as・that isを正確に使い分けられる／専門語を定義しながら論述できる／面接で「例えば」「つまり」を英語で自然に使える

授業構成（90分）＋演習・質疑応答（30分）

授業90分：1 導入：専門語を使うだけの論述と説明しながらの論述を比較 2 3機能の整理：定義・例示・言い換への違いを整理 3 定義：namely・that is・which is defined as の使い方 4 例示：such as・for instance・including の区別と使い方 5 言い換え：in other words・to put it another way の使い方 6 演習：医学テーマの英語論述で3機能を使いながら書く 7 まとめ：「専門語を使うたびに説明を添える」習慣を固定

追加30分：医学テーマで専門語を3機能で説明しながら書く英語論述演習と、表現の正確さについてフィードバックと質疑応答を行う。

板書・スライド骨子：定義・例示・言い換への3機能の違い／シグナル表現一覧と使い分け表／医学テーマへの適用例／論述骨子テンプレート

課題：医学テーマ1つを選び、専門語を最低3つ使い、それぞれをnamely・such as・in other words のいずれかで説明しながら英語論述（120語以上）を書く。

備考：高校・予備校の先生方／編入学試験および大学院受験への橋渡しの基礎確認をしたい方にも対応。